



豊かな絵本・本・メディア 環境の実現に向けて

～「子どもと絵本・本に関する研究」のこれまでの成果から～

2月28日(月) 15:00～17:00 (14:30より入室可)

- 本シンポジウムはオンライン (Zoom) で開催します。
- 参加には事前の申込みが必要です。
- 参加費は無料です。
- ライブ視聴の定員は先着1000名です。

企画趣旨

2019年8月にスタートしたCedepとポプラ社による共同研究プロジェクト「子どもと絵本・本に関する研究」では、子どもと絵本・本の関わりや子どもを取り巻く絵本・本・メディア環境について、調査、実験、事例研究など多様なアプローチに基づき、多層的・多面的な研究を行ってきました。シンポジウムでは、プロジェクトのこれまでの成果をまとめた上で、これから生きる子どもたちにとっての豊かな絵本・本・メディア環境を実現するための提言に繋がります。



プログラム

※プログラムは変更となる場合がございます。

開会の挨拶・はじめに

野澤 祥子 (発達保育実践政策学センター 准教授)

共同研究の成果から

佐藤 賢輔 (発達保育実践政策学センター 特任助教)

■ 「子ども・親子・家庭のレイヤーから」

高橋 翠 (発達保育実践政策学センター 特任助教)

■ 「園・図書館・地域社会のレイヤーから」

指定討論

秋田 喜代美 (学習院大学 教授 / 東京大学 名誉教授)

遠藤 利彦 (東京大学大学院 教授 / 発達保育実践政策学センター センター長)

提言に向けたディスカッション・質疑応答

上記登壇者 + 千葉 均 (株式会社ポプラ社 代表取締役社長)

閉会挨拶

浅井 幸子 (東京大学大学院 教授 / 発達保育実践政策学センター 副センター長)



▲実験研究の様子

※セミナーの様子は録画配信いたします(一部プログラムを除く)。配信のみご視聴する場合は申込みの必要はございません。Cedepのウェブサイトから、どなたでもご覧いただけます。

※セミナーの資料は、セミナー終了後にCedepウェブサイトに掲載する予定です(一部資料を除く)。

※録画配信および資料公開の期間は未定です。



シンポジウムの詳細・お申し込みはこちら

URL <http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/event/39258/>

■お申し込みはお一人ずつお願いいたします。■お問い合わせについては、お返事までに数日お時間をいただく場合がございます。

登壇者プロフィール

秋田 喜代美

教育学博士。学習院大学教授、東京大学名誉教授。専門は教育心理学、保育学、学校教育学。発達保育実践政策学センター初代センター長。現在、日本保育学会会長、NPOブックスタート理事など。『読書の発達心理学』（国土社）、『保育の心もち2.0』（ひかりのくに）など著書多数。



秋田 喜代美

遠藤 利彦

心理学博士。東京大学大学院教授、発達保育実践政策学センターセンター長。専門は発達心理学、感情心理学、進化心理学。『「情の理」論』（東京大学出版会）、『赤ちゃんの発達とアタッチメント』（ひとなる書房）など著書多数。NHK Eテレ『すくすく子育て』に出演。



遠藤 利彦

野澤 祥子

教育学博士。発達保育実践政策学センター准教授。専門は発達心理学、保育学。科学研究費補助金・基盤研究(S)「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究—質の保障・向上システムの構築に向けて」研究代表者。本共同研究では、全体の統括を担当。

佐藤 賢輔

発達保育実践政策学センター特任助教。本共同研究では、絵本とデジタル絵本の比較や絵本と子どもの想像力の関連性についての実験研究、家庭における絵本・本およびメディア環境、読書や遊びに関する保護者の意識についての調査研究を担当。

高橋 翠

発達保育実践政策学センター特任助教。本共同研究では、保育・幼児教育施設における絵本・本の蔵書数や年間予算などの基本的な環境や、子どもの読書活動の推進に向けた公立図書館の取り組みについて調査研究を担当。



千葉 均

千葉 均

株式会社ポプラ社代表取締役社長。1962年宮城県石巻市生まれ。東京大学医学部保健学科を卒業後、生命保険会社、シンクタンク、証券会社、コンサルティング会社などの勤務経験を経て、2009年にポプラ社に入社。業務管理局長、営業本部長を経て2016年より現職。

Cedepについて

2015年7月に設立された東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター(Cedep)は、学内外の研究者、実践者、企業や団体、国や自治体と連携しながら、子ども子育ての課題を協創探究し、解決の道筋を国際的に発信することを目的とする研究拠点です。「あらゆる学問は保育につながる」をスローガンとして、子育て・保育、発達基礎、政策、人材育成の4領域において先端的な研究に取り組んでいます。



ポプラ社について

戦後間もない1947年に児童書専門の出版社として創業し、こどもと昔こどもだったすべての人に、人生の糧となるような良質の本を届け、心豊かに生きる社会の発展に貢献することを企業理念に掲げています。現在は児童書にとどまらず老若男女を対象とした出版活動に対象を広げ、海外展開やIP事業も推進。2021年度からこどもの学び「こどもっとラボ」事業を立ち上げ、教育ICTサービスに新規参入しています。



共同研究について

Cedep×ポプラ社の共同研究「子どもと絵本・本に関する研究」プロジェクトは、「絵本・本」の価値を学際的アプローチで明らかにし、知見に基づいて子どもを取り巻く読書環境を改善することを目的としています。子どもを取り巻く絵本・本環境を、エコシステムとして多層的に捉えた上で、子ども・家庭—園—地域それぞれのレイヤーの実態や関係性を把握するための研究を実施しています(右図参照)。なお、エコシステムの考え方は、発達心理学者U.ブロンフェンブレナーによる、人の発達を「人と環境(文脈)が相互作用し合うシステムのなかで複雑に規定される」ものとして捉える生態学的アプローチを参照しています。

